

# ワークショップ（対話の場）の企画・運営方針

# 想定利用者を社会教育複合施設に対する関心度で3つに分類し、関心度に応じた効果的な対話の場を企画・運営します

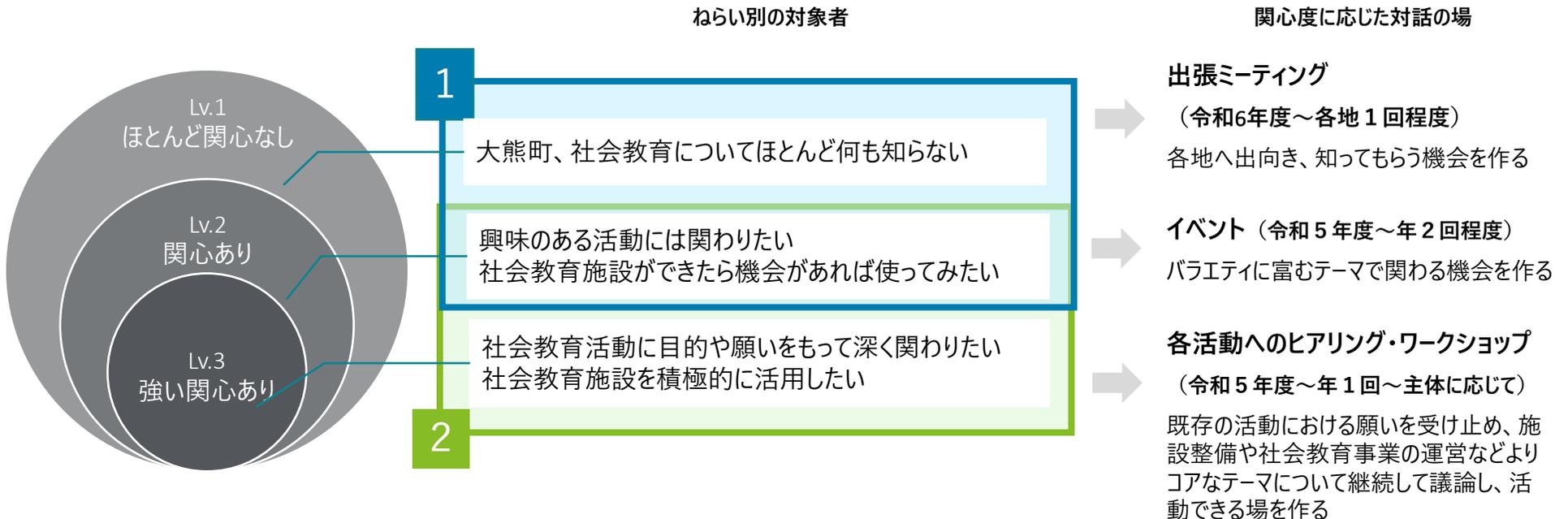
## ワークショップ等対話の場の機会設定のねらい

**1** 複合施設の利用者像の間口を広げ  
将来的な想定利用者を拡大

**2** 主体的に施設に関わり、  
共に創り運営する協働組織体（友の会やサークル等）の形成

ワークショップ等対話の場（以下、対話の場）の設定には、将来的な「想定利用者の間口を広げる」ことおよび長期的に参加者が将来的な施設の担い手となることを目指した「協働組織体形成」の2つのねらいを実現するため、大熊町が想定する将来的な利用者が抱く**大熊町の社会教育活動および本施設整備に対する関心度を捉え、対象者に応じた対話の場の設定する**。以下の通り、関心度をLv.1から3段階で整理する。

## 想定利用者の関心度に応じた対話の場の設定



# 10/21ふるさとまつりの機会に、祭りをきっかけに町に訪れる人に向けたWISHワークショップを開催します

## 令和5年度第1回ワークショップ記憶の森（仮称）企画概観

### ◆ワークショップの考え方

- 「ふるさとまつり」の特徴を生かし、本事業への関心を増やすための働きかけをし、「社会教育複合施設」の構想に対する認知を深める・周知する機会にする。
- 祭りにブース出店をすることで、町の中に溶け込み、ワークショップなどの参加が難しい家族や高齢者など、生活環境の中でしか馳せることができないふるさとへの想いを募りながら、緩やかな関係構築の実現を目指す。
- 集めた「情報」「想い」を芸術的な「形」に表現することで、目で見ても楽しめ、祭の祝祭感との共鳴を深める。そして、これらの創作物が新たな社会教育複合施設の一環として永続するための「記憶と記録」にもなる仕組みを構築する。

### ◆ワークショップの企画イメージ

#### ワークショップvol.1 10月21日

最初のワークショップは10月21日の「ふるさと祭り」のタイミングで開催。ここでのワークショップはふるさと祭りの出店の一つとしてそこに来てくれた人の声を収集する。

今、この場所にいる「わたし」にスポットライトを当て、少しだけ立ち止まってひとりひとりのWISHを記す。参加者の「どう生きたいか、どうありたいか、なりたいか」の情報を収集するとともに、継続的なつながりのための情報を収集する。

#### ワークショップvol.2 日程未定

ブースを通じて社会教育施設建設を知り興味を持った方や、すでに過去のワークショップに参加した人などを集めたワークショップを開催。具体的な内容はワークショップvol.1のフィードバックなども見つつ、例えば「図書館、公民館、博物館」の三つの主たる機能の一つ「図書館」に絞り、お気に入りの一冊を持参いただき、自分とその本の関係／出会った経緯などを話してもらいつつ、この町にあったらいいと思う図書館の環境、あり方、地域との関わりなどを考える機会とすることを一案として考えている。

#### ワークショップvol.3 日程未定

こちらも1, 2回のワークショップを踏まえつつ、具体案を検討したいと考えているが、「図書館、公民館、博物館」の一つの要素を抽出して考察することや、vol.2で話したテーマを発展させるワークショップにできるのではないかと考えている。